

## 1 調査の概要

- 調査場所：飯田市上久堅<sup>かみひさかた</sup>7866 番地ほか
- 調査原因：国土交通省飯田国道事務所による一般国道 474 号飯喬<sup>いいたか</sup>道路建設工事
- 調査期間：平成 25 年 4 月 11 日～11 月 29 日 (予定)
- 調査面積：14,044 m<sup>2</sup>
- 検出遺構
  - 中世 (15 世紀) 以降：掘立柱建物跡、土坑、溝跡ほか
  - 中世 (15 世紀) 以前：礎石建物跡の礎石<sup>そせきたてものあと</sup>?、柱穴?

## 2 これまでの調査で発見されたもの

神之峯城は、室町・戦国時代 (16 世紀頃) に、城周辺の天竜川以東を治めた国人<sup>こくじん</sup>領主<sup>りょうしゅ</sup>の知久氏の本城です。山頂には本丸跡と二の丸跡が残ります。知久氏は神之峯城在城時に「知久十八ヶ寺」(寺院)を建立したとされています。

昨年度、「知久十八ヶ寺」のひとつである「法心院」<sup>ほうしんいん</sup>推定地の近くで、15 世紀～16 世紀の礎石建物跡<sup>そせきたてものあと</sup>がみつかりました。

今年度は、3 箇所<sup>箇所</sup>の尾根上 (1 区、2 区、3 区) で調査しています。2 区では、検出面で幅約 5m、深さ約 3m の堀状の落ち込みが確認されました。落ち込みの断面は V 字のような形で、中世の山城でみられる堀を彷彿とさせますが、自然にできた可能性もあります。発見場所が城の中心 (本丸跡・二の丸跡) から離れていたため、その場所にある理由について検討しています。

### 本丸跡・二の丸跡



写真 1 神之峯城跡 調査区全景  
(北から神之峯城跡を臨む)



写真 2 尾根上 (2 区) で見つかった堀状の落ち込み

### 3 今年の発掘調査で発見されたもの

今回の見学場所は、北東側の尾根（調査の便宜上、3-1区と呼称）で、「知久十八ヶ寺」のひとつである「新慶寺」の推定地に当たります。

#### ①平坦な場所につくられた屋敷地—中世（15世紀）以降—

3-1区は明治時代以降、畑として利用され、調査前まで平坦な場所が広がっていました。調査では、耕作土を剥いだ面から10棟以上の掘立柱建物跡や溝跡、土坑がみつかりました。掘立柱建物跡は3-1区の中央部に密集し、東側と西側に、境界を示す溝が南北方向に掘られていました。3-1区の尾根を削り、平坦な場所を確保することで屋敷地を形成していたと考えられます。

掘立柱建物跡は、建物跡の軸方向から4時期に分かれます（裏面第3図①～④）。正方位（東西南北）を向く建物（第3図①）が2棟あります。この建物は総柱であることから、高床（床が地面より上にある）と考えられます。3間×3間の建物跡（ST301、写真3）は母屋、2間×3間の建物跡（ST302）が母屋に付属する建物と考えられます。

3-1区の中央やや北西側には谷状に窪む場所があります。屋敷地は谷状の窪みを埋めた後につくられていました。埋め立てた土（造成土）の中からは15世紀に瀬戸美濃地方（愛知県・岐阜県）で焼かれた皿が出土しました。

#### ②谷状の窪みの中につくられた建物？—中世（15世紀）以前—

谷状の窪みにトレンチ（試掘溝）を掘ったところ、この窪みには何度も土を入れて埋め立てていることがわかりました。埋め立てた土（造成土）の上面には硬くたたきしめた場所や礎石建物の礎石と思われる石、もしくは柱穴と思われる落ち込みがみつかりました。また、拳大の礫が帯状に延びる場所（写真5）がみつかり、礫の間から13世紀に中国で焼かれた青磁や香炉、15世紀に瀬戸美濃地方で焼かれた天目茶碗などが出土しました。礫と陶磁器の出土状態から、捨てた場所であったと考えられます。

今後、谷状の窪みの中がどのように利用されていたかを明らかにしていこうと思います。

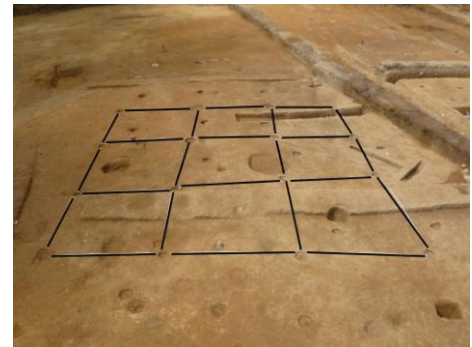


写真3 掘立柱建物跡 (ST301)  
(約5.4m四方)



写真4 柱穴の中に設置した石  
(礎盤石)



写真5 帯状に延びる礫

長野県埋蔵文化財センター  
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4  
TEL(026)293-5926 FAX(026)293-8157  
E-mail info@naganomaibun.or.jp  
インターネット(最新の情報はこちらから)  
長野県埋蔵文化財センター 検索  
<http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>





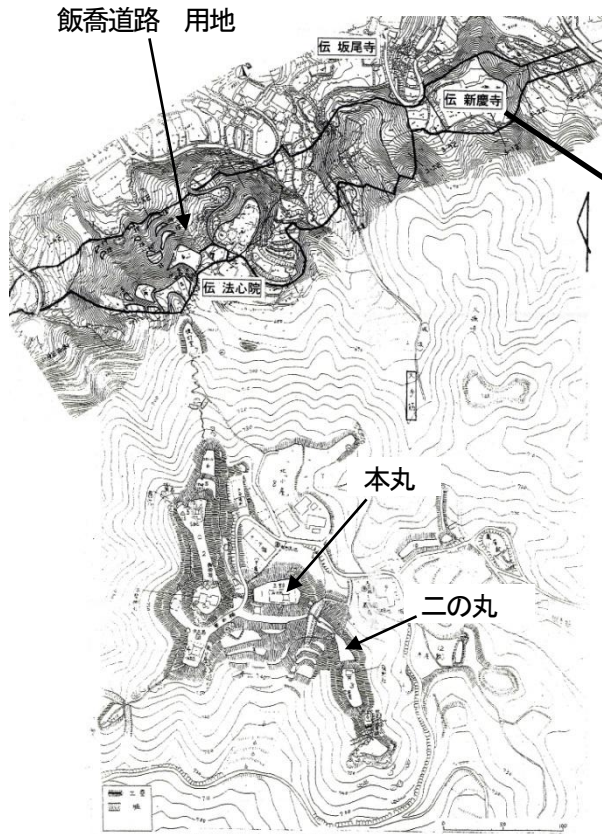


図1 神之峯城跡 縄張り図  
(宮坂 1999 『図解山城探訪』  
第7集に加筆)

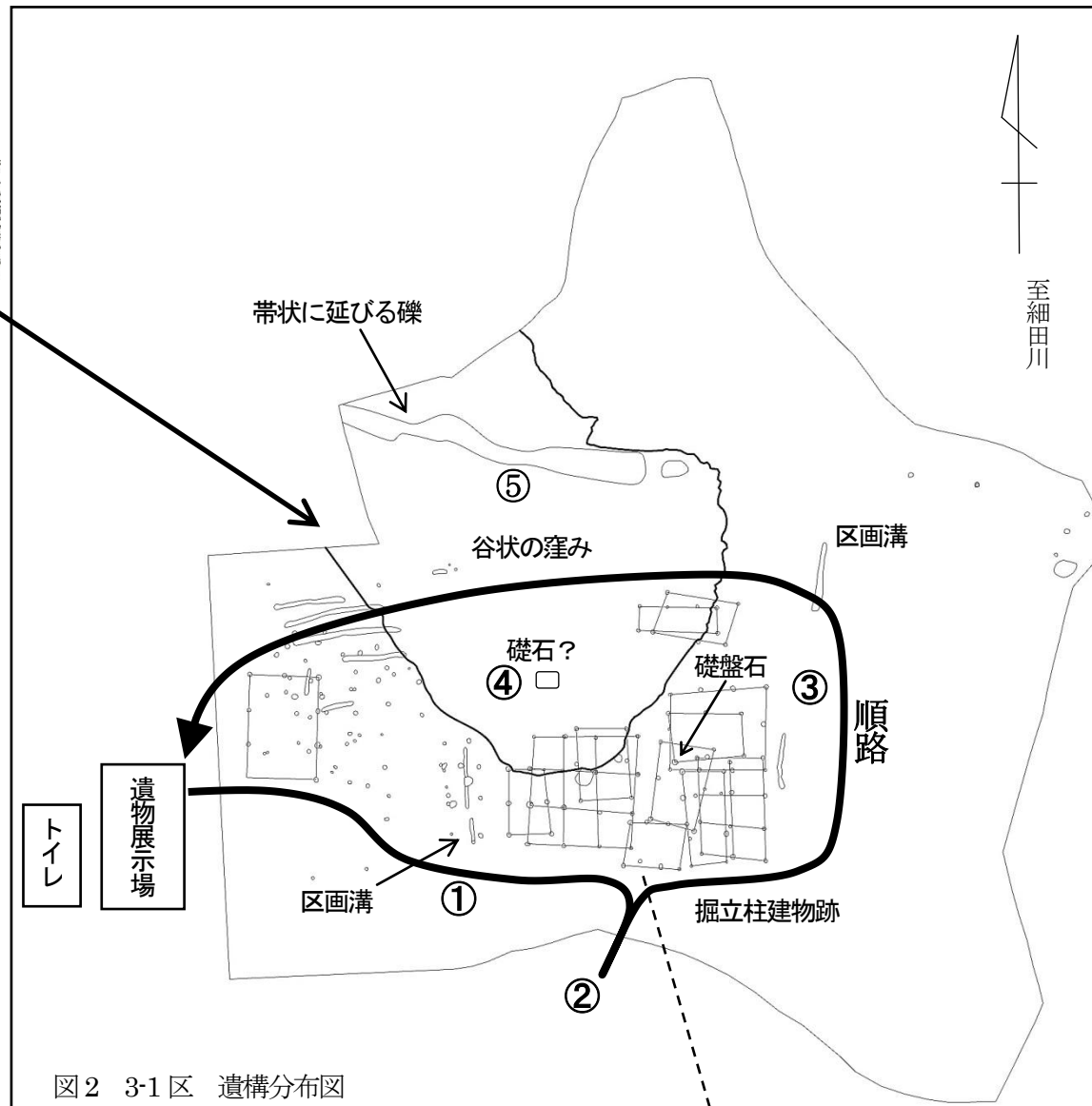


図2 3-1区 遺構分布図

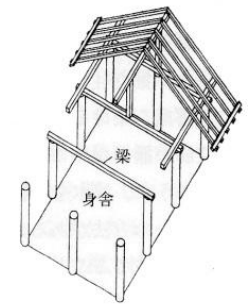


図4 掘立柱建物跡の模式図

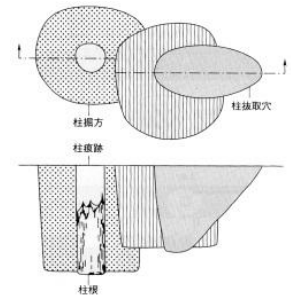


図5 柱穴の模式図

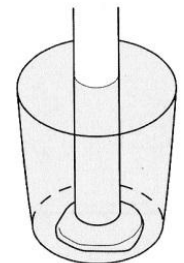


図6 礎盤石の模式図

(奈良文化財研究所 編 2010  
『発掘調査のてびき —集落  
遺跡発掘編—』より引用)

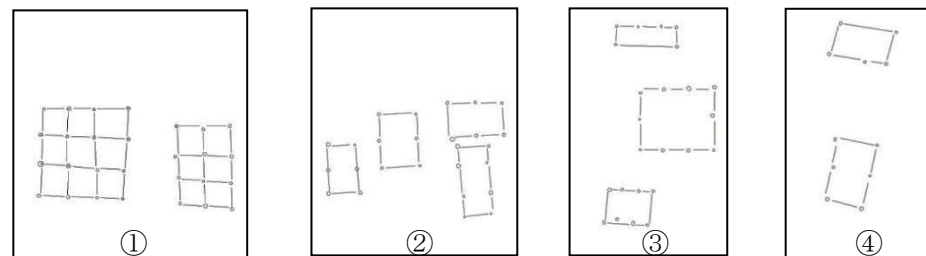


図3 各時期の掘立柱建物跡